

2022（令和4）年度
相談支援センターあんず 事業報告書

はじめに

コロナ禍の影響下、利用者さんお一人おひとりのご体調・障害の変化、並びに、ご家族の高齢化に伴う介護力低下等、各ご家庭における現状と将来への展望に関しては不透明感が強い。その中、利用者さんにとって自立した生活の実現とご家族の介護負担軽減にどう繋げるかを考えた。

当センターに登録中の利用者さんの殆どは「あんずの家」の生活介護サービスの利用者であり、ご本人さま、ご家族さまの状況変化等にも適時対応はとれていた感がある。また、「あんずの家」を利用されていない外部の利用者の皆さまについても、関係機関の皆さまを招集する必要性が薄い場合、感染拡大を防ぐ観点から、モニタリング調査やサービス担当者会議等については基本的に電話対応とし、そこで得られた諸情報の他、関係方面からの報告等を基に、利用者さんの現状の支給量範囲での諸調整（→ サービス提供事業者の選定や変更についての交渉等を含む。）、及び、サービス利用に関する説明を行い、各ニーズへの対応に繋げた。

また、冒頭前述の通り、介護するご家族の高齢化、並びに、利用者さん自身の「65歳問題」は既に周知の大きな課題である。保護者や利用者の皆さまが高齢化に向かわれる現状を鑑みた時、障害福祉サービスから介護保険サービスへの移行が利用者さん本人の障害状況から考えて妥当か、いつの時期にご家庭を離れ、新しい生活環境に移って頂くのが最良か等、今後もご本人、並びに、ご家族のお気持ちに寄り添って考え、より良い方向付けに結び付けられたらと思う。

加えて、今年度は災害対策に関する活動として、「避難行動要支援者個別避難計画」の作成業務（→ 当センターの該当利用は2名）にも取り組み、利用者さんがお住まいの地域自治会関係者の方々とも初めて連携し、相談支援という見地から地域の災害避難活動への取り組みを知り、微力ながらも関わられた学びは収穫だった。

今後も利用者の皆さまお一人おひとりの状況変化に適時対応し、わかりやすい利用計画の作成を心掛ける。ご本人やご家族の皆さま、その他支援に関わる関係各方面から賜った諸情報を把握し、今現在、関わらせて頂いている利用者さんの支援に丁寧に向かい合える姿勢をいつも忘れない様にしたい。また、相談支援事業所連絡会、地区ブロック会議、研修会への参加等を通じ、相談員としてのスキル向上も図っていきたい。

1 実施件数

- | | |
|--|-----|
| ▶サービス等利用計画 | 12件 |
| ▶モニタリング及び評価 | 51件 |
| ▶サービス提供時モニタリング加算 | 42件 |
| ▶日常生活に関する相談 | |
| ・認定中の区分に基づき、支給可能なサービス量の範囲内での計画変更に関して行政、該当するサービス提供事業者さまへの対応や更新手続きに関する支援、利用計画の作成に関する相談に対応した。 | |
| ・サービスのご利用方法、手続きの進め方等の相談に関し電話等により対応した。 | |

2 事業推進のための連携

福山市総合支援協議会 相談支援連絡協議会に所属し、事例検討、情報交換等に努めた。